

山内先生 ご退官おめでとうございます

高尾 彬*

30 数年前の学生時代には、大学紛争があり十ヶ月余り講義や巡検の指導を受けることができませんでした。紛争が収束した後、地学的な素養や地層や岩石を見る目が十分でなかった私たちに、お兄さんのような雰囲気でごっくばらんに、また懇切丁寧に指導していただき、その間の空白の部分を補って頂きました。

グリントフ地域に出かけての地学巡検の時に、他の大学の先生や学生の皆さんと一緒に公民館を借りての合宿を行いました。その時の状況を今なお鮮明に思い出します。それは巡検が終わってからの夜の懇親会でみそで味付けした白菜をかじりながら酒を飲み交わし、夜遅くまで語り合ったことです。今でも、寒くなり鍋物の季節になって目の前に切り刻んだ白菜が出てくると懐かしく思い出しています。

また、大東町の海潮の魚屋さんに泊まらせていただいて巡検をしたこともありました。大東を經由して松江に行く途中で、凝灰岩の露頭をみると、山内先生や当時一緒に歩いた同級生達の顔も浮かんできます。パミスタフという専門用語もこのときに初めて耳にしました。

20 年前には島根地学会が結成されましたが、その時から今日まで大学側の担当者として、また会の運営の一員として適切なお助言をいただきました。お陰様で島根地学会も来年度結成 20 周年を迎えることになり、ここまで組織が維持され今日を迎えることができますこと、関係者一同大変喜んでおります。先生がご退官なさっても、益々発展させていきたいと思っておりますが、今後とも引き続きご指導をいただきたく思っております。

私事ですが、昭和 62 年度から平成 2 年度までの 4 年間、島根県立松江教育センター第 1 研修課の地学担当者として勤務いたしました。この間に、教育センターの研究紀要に毎年、県内の地学的素材の教材化について調査をして、紀要の現行をまとめてきました。四年間の紀要のタイトルは、『第四系「都野津層」の教材化』、『第三系「不志名層」「古江層」の教材化』、『第三系「益田層群」, 「唐鐘層」および「備北層群」の教材化』、『隠岐の地学素材の教材化』というものでしたが、これらの原稿を書いたあと、地層については山内先生に、化石については高安先生にチェックをしていただきました。原稿をみていただき安心して研究紀要に掲載することができましたこと、大変感謝しております。

山内先生をはじめ、研究室の先生方には、今までいろいろな面でお世話になったり、多くのことを教えていただきました。

先生方に教えていただいたことを、少しでも学校や地域の方に還元していきたいと思い、小・中学生や教職員の地学巡検の案内を行っております。今後も、いろいろとお教えを乞うこともあると思いますので、その節にはよろしくお願い致します。

ご退官なさっても益々元気にご活躍されますことを願っております。

ありがとうございました。